

# た よ り



〒518-0814 伊賀市上友生785番地

TEL&FAX; 0595 (21) 8839

URL:<http://www.iga.ed.jp/igaken>

E-mail:[iga-ken@iga.ed.jp](mailto:iga-ken@iga.ed.jp)

## 学校訪問で元気をもらっています♪

2学期が始まり3週間が経ちました。この間、いくつかの学校を訪問させていただきました。1学期末に少し心配された学級も落ち着いて学習に臨めており、良い状況の中でスタートができていると感じました。子どもたちの頑張り、教職員の入念な準備や子どもを大事にした実践がうまくマッチしているように思いました。2学期を迎え、気持ちを新たに意欲的に取り組んでいる子どもたちが大きく成長できるように指導・支援していきたいですね。



長丁場の2学期、これからが本番ですが、充実した教育活動が展開されますことを期待しています。

教育研究センターとしましても、多くの学校を訪問させていただきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

## 伊賀市学力向上プロジェクト委員会開催♪

9月5日(月)、伊賀市学力向上プロジェクト委員会が開催され、「伊賀市の学力の状況(全国学力・学習状況調査より)」「今後の取組」について協議を行いました。また、その中で、武庫川女子大学 森脇 健夫教授より、「学習内容の理解と定着に向けて～めあて・まとめ・ふりかえりの改善から授業改善へ～」という演題でお話をいただきました。



### お話しいただいた内容

はじめに・・・コロナ禍における授業づくり

1 「R4 全国学調」について

2 めあて・ふりかえりの改善から授業改善へ

めあて・ふりかえりの質を高めよう！！

(めあての質の向上→ふりかえりの質の向上→自律的学習者へ)

森脇さんからたくさんのご示唆をいただきましたが、本紙面では、2の「めあて・ふりかえり」に関わって紹介します。

全国学力・学習状況調査の「児童・生徒質問紙」結果から、伊賀市の子どもたちの大きな課題として、家庭学習の不十分さが挙げられます。このことは、従来から課題として言われてきたことであり、各学校においてさまざまな取組を積み上げてきているにも関わらず、なかなか改善していかない点でもあります。また、「ゲーム等の時間：3時間以上 36.7%、SNS動画視聴時間：3時間以上 38.7%(中3)」というように、ゲームやスマホをする時間が圧倒的に多くなっています。

そのような現状を打破し、課題解決に向けてどう取り組んでいけばいいか、具体的にお話をいただきました。

そのキーワードとなるのが、「めあて・ふりかえりの質を高める」です。授業において「めあて・ふりかえりの質を高める」ことが「自律的学習者を育てる」ことにつながり、結果的に土日の家庭学習の時間の伸びへ結びついていくという内容でした。限られた時間でしたので、詳しくは10月25日(火)実施の学力向上プロジェクト研修会(各校2名参加)で具体的事例をもとに提示いただく予定です。

学力向上プロジェクト委員会でのお話では、「めあての言葉を工夫する」ことの大切さやそのためのポイントを以下のとおり3点述べられました。

①児童・生徒を主語にする

②児童・生徒の行動 (can do) でめあてを示す。行動で示すと評価が明確になる。

例：覚える⇒読める、書ける・理解する⇒○○を説明する

③条件(数)、程度、期限を設定する。

例：最低1つできたら二つ、なめらかなフォームのクロールで、一カ月後までに、30秒以内に25メートルを」

具体的なふりかえりができるめあてにすることが重要だと話されました。そして、ふりかえりは自律的な学習(自己調整学習)の重要な局面であること、ふりかえりの精度を上げることが課題だとつなげられました。そのためには、①漠然としたふりかえりから観点を持ったふりかえりへ、②主観的なふりかえりから根拠を持った「客観的な」ふりかえりへという視点が重要とも示唆いただきました。

レベル1「思ったこと、感想」⇒レベル2「わかったこと、発見」⇒レベル3「わからなかったこと」⇒レベル4「次に知りたいこと、もっと知りたいこと、勉強して思いついた発問」⇒レベル5「次の授業につながる疑問」というようにふりかえりのレベル設定についてもお話いただきましたが、教職員各自が自身の授業におけるふりかえりがどのレベルなのかを確認し、ステップアップしていく取組が求められていると思いました。また、協議の中で、レベル3にあるように、「このことがわからなかった」とふりかえられることも大事にしたいと確認されました。



森脇さんから、全体のまとめとして以下のように提示いただきました。

- 1 コロナ禍はさまざまな影響を子どもたちに与えている。  
目に見える影響(子どもの貧困、学力格差問題)もあるが、目に見えない影響(関係性の構築等)も注視すべし。授業での人間関係づくりが課題。
- 2 「学調」結果分析で大事なことは、①子どもの意識や生活実態の把握 ②誤答分析を授業改善に結びつけること ③学力の「基礎体力」を育てる(特に家庭学習、読書の量(質)の確保)
- 3 授業づくりのポイント(めあて、ふりかえりの改善から授業改善へ)  
めあて・ふりかえりは、まずは授業参加と理解の定着。言わばUDのため。  
そして、その先には「ふりかえり力」の向上という課題への挑戦がある。  
ふりかえりができるようになれば、自律的学習への第一歩。  
おそらくその成果は、土日の学習時間の伸び、ということで検証される。

これまでの取組により、めあての提示、ふりかえりの実施は、すべての学校において一定の定着がなされてきました。今は、それらの質に課題があるという段階にきているのだと思います。自律的な学習につながる「めあて・ふりかえり」になるように授業研究を深めていくことが重要です。そこを切り込んでいけば、森脇さんがまとめられたように土日の学習時間の伸び、家庭学習の定着に結び付いていくと思われました。

多くのご示唆をいただきましたが、この紙面で記載することはできませんでした。先にも記しましたが、10月25日(火)に予定している学力向上研修会で森脇さんにご講演いただきますので、その場で「具体的なふりかえりのできるめあて」「めあてが達成できるような活動の組織と支援」「ふりかえりの質を上げる挑戦」等について、実践につながる学びを深めていただければと思います。

最後に、本年度の全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた「伊賀市学力向上プロジェクト委員会」からの提言(学力向上に向けた今後の取組)について確認しました。ここでは項目のみ記載します。

### 1 さらなる授業改善への取組

- 主体的・対話的で深い学びを意識した言語活動の充実
- めあて・ねらいの提示と振り返り(自己評価)の徹底と質的向上
- GIGA スクール構想に基づく一人一台端末の積極的な活用
- カリキュラムマネジメントを意識した取組の充実
- 授業のユニバーサルデザイン化
- 管理職による教員の授業へのアドバイスの実施

### 2 家庭学習の充実

### 3 小中の連携、保護者・地域との連携



授業改善を核とした取組を行う。そのためには、学校内の全ての教職員が共通認識をもち、学校長のリーダーシップのもと学校全体で取り組むことを確認する。

学力向上プロジェクト研修会の実施時期が例年よりかなり早くなっています。研修会での学びを各学校(園)で還元いただき、今年度の授業改善へいかしていけるよう各学校(園)での「熱い取組」をよろしくをお願いします。

## 「あぶない!」・「注意 通学路」看板、「SOSの旗」を配付します♪

～9/20(火)より～

9月9日(金)に両看板が当センターに届きました。既に届いている「SOSの旗」とともに、各小学校別に仕分けをし、調理室へ置いてあります。

学校教育課から連絡があったと思いますが、9月20日(火)から配付をさせていただきますので、取りに来ていただきますようお願いします。速やかに設置いただき、子どもたちの安全確保をよろしくをお願いします。



## 体育館の照明工事(LED化)を行います♪

…10/3(月)～10/7(金)…



10月3日(月)～7日(金)の予定で、当センター体育館の照明工事(LED化)を行います。この間、体育館を使用できなくなりますのでよろしくお願いします。

また、3日(月)午前及び7日(金)午後に、機材を搬入・搬出する予定(渡り廊下より搬出入します)をしていますので、体育館南側(体育館と校舎の間)の駐車スペースを制限させていただきます。

ご不便をおかけしますが、ご協力をよろしくお願いします。

雑感：学力向上プロジェクト委員会での協議の中で、全国学調過去問題に取り組むことの意義について話題になりました。過去問をやって問題に慣れさせる(もっと言えば全国学調に向けた対策)という視点もありますが、全国学調の問題は、学習指導要領に位置付けられた「子どもたちにつけるべき力」がついているのかどうか確認できるものだという視点が大事ではないかという話が出ました。つまり、日々の授業と全国学調の問題がリンクしている必要があるということです。これまで出題された問題を解き、自校採点に取り組んできた私自身の経験から共感する点が多々ありました。協議では、「伊賀市の学校の授業において言語活動を十分させていない」「教師が示しためあてになっていることが多く子どもたちは受け身になっている」「まとめも先生が提示し、できる子のふりかえりで終わっている」「わからないと言える子どもをつくるのが大事」などの意見が出されました。これらの意見を今一度自身の授業に重ねてみるのが大切だと感じています。では、どうしたら良いのか・・・そこは学校という組織の腕の見せ所です。10/25の研修会でぜひヒントをたくさんゲットしてください!